

令和7年度 城山幼稚園・しろやま保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	4	・信頼関係を築きながら、子どもが主体となる保育を心がけました。子どもの様子や言葉から、思いを受け止め関わることや、子ども自身で考え行動できるように努めたことで、自信を持ち、安心した気持ちで、自己表現ができるようになりました。 ・療育機関やその他関係機関及び保護者とも常に連携をとり、一人一人の発達を支えてきました。	・全職員で、子どもの姿をつかみ、発達段階に即したねらうべき姿を、さらに追求します。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	・3歳以上児月案・3歳未満児月案・全体月案などで、様々な子どもの姿を共有することで、目指す子ども像が明らかになり、ねらいや環境設定の確認を行うことができました。 ・今年度の新たな試みとして、「3歳未満児保育で大切にすべきこと」を実践討議したことで、保育に対する共通理解が深まりました。	・相談しやすく、連携できる職員関係を大切にします。 ・ねらいを明確にした環境構成について、全学年で考え合う機会を園内研修に位置付けます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	・園内外での研修会や部会での学びをクラスの現状に置き換えて考え保育に取り入れ、子どもの成長につなげることができました。 ・研修報告の場を設けることで、研修を受けた職員はより自分のものとしてでき、報告を受けた職員は、研修内容を知り、学びにつなげることができました。	・研修会で学んだことや感じたことをクラスの姿に応じて、自分なりに工夫し試しながら実践し、子どもの学びを支える力につなげます。 ・研修成果を実践に活かしていく過程の経過報告や情報共有を行います。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	4	・防犯訓練について、職員間であらゆる場面を想定し話し合うことができました。 ・特別支援児や要対協対象家庭など、各家庭や一人一人の現状に合わせて、安全に登園できる配慮や命を守ることを第一とした配慮を行い、各関係機関とも連絡・連携を取り合うことができました。 ・アレルギー対応、無熱性痙攣重責対応など、朝礼や会議での周知を行い、全職員が把握し対応できるようにしました。	・職員が休暇を取得するときは、代替職員との綿密な引き継ぎをします。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	4	・あいさつ運動では、職員が小学校へ出向いたり、小学校の児童が、園にあいさつ運動にきてくれたりとお互い自然な交流ができました。また、中学校体育祭のソーラン節を見に行くなど、新たな取り組みが生まれ、昨年度より、小学校や中学校と交流することが増えました。	・子ども同士の交流が自然な形で持てるような関わりや取り組みを増やせるように、接続カリキュラムの見直しを、研修委員を中心に進めます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	・今年度はおしゃべり会を実施し、子育ての悩みやメディア等についての現状を出し合い、子育ての大変さを分かち合うことができました。保護者同士でアドバイスや相談を行い、相互に参考となる取り組みを実践するなど関係性の深まりがみられました。その結果、メディア時間を他の遊びに置き換える家庭や、生活調べに前向きに取り組む姿がみられました。	・保護者の悩みを受け止め、思いに寄り添い、園での姿と照らし合わせながら具体的な育児方法を伝えます。 ・早番・遅番をうまく活用し、長時間保育を利用している保護者と話す機会を増やせるよう意識します。